

小児がん拠点病院連絡協議会 診断部会設置について

資料 6 - 1

国立成育医療研究センター 清河 信敬 宮寄 治 義岡孝子

小児がん中央機関の役割

H24年9月7日(H26年2月5日最終改正)厚生労働省健康局長通知

- (3) 全国の小児がんに関する臨床試験の支援を行うこと。
- (4) 小児がん拠点病院等に対する診断、治療などの診療支援を行うこと。
- (5) 小児がん診療に携わる者の育成に関する国内の体制整備を行うこと

設置の目的と意義

拠点病院間の診断部門の担当者が連携し、情報共有することで、国内の小児がん診断のさらなるレベル向上を図るとともに、後継者育成のシステム構築を目指す

→当初計画していた病理診断のみでなく、小児がん診療に必要な放射線診断、分子診断を含んだ連携を目指す

診断支援の必要性

- ✓ 病理診断、放射線診断を始めとして、高度な専門性が必要で、小児がん専門の診断医でないと正しい診断が難しい場合が多い(病理医、放射線医なら誰でもできるわけではない)
- ✓ 臨床試験の質を担保するレベルの細胞マーカー検査、遺伝子検査は、高度な専門性が要求され、どこでもできるわけではない
- ✓ 診断の標準化、均てん化、精度の維持には、中央診断が不可欠

(4)小児がん拠点病院等に対する診断、治療などの診療支援。 イメージ



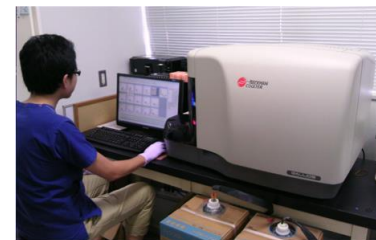
病理診断

放射線診断

分子生物学的診断

細胞マーカー診断の研修の
受け入れ→2015年度2名
(茨城県立こども、東京都立小児総合)
三重大学でも同様の研修を実施

小児がん拠点病院 等



診断用検体のアーカイブ
システムを構築中

地域小児がん医療機関

診断困難例などの相談

地域小児がん医療機関

地域小児がん医療機関

地域小児がん医療機関

小児がん中央機関・拠点病院事業と診断

国内の小児がんの一連の診断は、JCCCGの臨床研究の中で国内で統一された中央診断として組織的に実施されており、拠点病院→中央機関という流れにはなっていない

一方、「小児がん拠点病院等に対する診断、治療などの診療支援を行う」範囲を超える部分の中央診断は、中央機関事業費からは支出することができない

現状、中央診断は成育の in house 研究費等を財源として実施されているが、持続性がなく、また厚生労働省としては「小児がんの臨床研究の中の中央診断」に限定した特別な財政的支援は行なえないと通知されている

∴中央機関・拠点病院事業の中で、臨床研究の中の中央診断と連携して、小児がんの診断の質を維持する工夫が必要

成育バイオバンク

小児がん検体保存センター
成育医療研究センター
小児血液・腫瘍研究部

日本病理学会小児腫瘍分類委員会と連携し、各疾患の専門委員会
で国内におけるエキスパートによる
中央診断を実施

脳腫瘍の遺伝子診断
病理診断の結果に応じて
国立がん研究センターと
大阪医療センターで実施

研究開発費26-20で
サポート

BBJ

余剰検体保存

病理診断
(事務局)

放射線診断
国内のエキスパート
によるWEB診断体制

細胞マーカー
遺伝子診断

遺伝子診断

成育医療研究センター

白血病マーカー遺伝子
中央診断ネットワーク

細胞マーカー

キメラ遺伝子

成育

筑波大学

三重大学

PCR-MRD

愛知医科大学

大阪大学

名古屋医療センター

一部、京都大学、
岡山大学でも
実施

中央診断

中央診断

(日本小児がん研究グループJCCG)

神経芽腫
遺伝子診断
埼玉がんセン
ターで実施

中央診断

血液腫瘍分科会
JPLSG

胚細胞腫瘍
委員会
JRSG

腎腫瘍
委員会
JWITS

ユーイング肉腫
委員会
JESS

肝腫瘍
委員会
JPLT

脳腫瘍
委員会
JPBTC

横紋筋肉腫
委員会
JRSG

神経芽腫
委員会
JNBSG

診断部会

✓ 拠点病院を中心として、病理、放射線、遺伝子、細胞マーカーの診断担当者が情報を共有するための組織を構築する

✓ 自施設の診断力の向上のみでなく、国内における小児がんの診断全体を向上させ、診療に役立たせるために、拠点病院として何ができるか協議する

✓ 小児がんの診断の診断育成について検討

☆ 今後の小児がん診断の方向性を示す

分子診断については、担当者がどなたか？を含め、実情が把握できていないのでアンケートを実施させていただきたい